

地 理 歴 史

1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

(1) 改善の基本方針

ア 社会科、地理歴史科、公民科においては、下記の課題を踏まえ、小学校、中学校及び高等学校を通じて、社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する方向で改善を図る。

イ 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探究する力を育成する観点から、各学校段階の特質に応じて、習得すべき知識、概念の明確化を図るとともに、コンピュータなども活用しながら、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する方向で改善を図る。

ウ 我が国及び世界の成り立ちや地域構成、今日の社会経済システム、様々な伝統や文化、宗教についての理解を通して、我が国の国土や歴史に対する愛情をはぐくみ、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する方向で改善を図る。

【社会科、地理歴史科、公民科の課題】

- 子どもたちの学習状況については、基礎的・基本的な知識、概念が十分に身に付いていない状況が見られる。さらに、知識・技能を活用することの重要性が指摘されている。
- 現行学習指導要領においては、特に、中学校社会科の各分野や高等学校公民科において文化の扱いが少なく、我が国の伝統や文化等に関する教育の充実が求められている。
- 小学校社会科において諸外国についての基礎的な知識が不足していること、中学校社会科の地理的分野において国々のうち二つ又は三つの事例地域に限定していること、歴史的分野において世界の歴史にかかわる内容が少ないことから、世界の地理や歴史に関する内容の充実も求められている。
- グローバル化や規制緩和の進展、司法の役割の増大など、社会経済システムの在り方が変化する中で、将来の社会を担う子どもたちには、新しいものを創り出し、よりよい社会の形成に向け、主体性をもって社会に積極的に参加し課題を解決していくことができる力を身に付けさせることの重要性が指摘されている。

(2) 改善の具体的事項

地理歴史科、公民科においては、中学校社会科の学習を踏まえ、各科目の特質と相互の関連性を考慮しながら、習得した知識、概念や技能を活用して、世界や日本の歴史的事象や地理的事象、現代社会の諸事象について考察し、その内容を説明したり自分の考えを論述したりすることを通して、社会的事象についての見方や考え方を成長させるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を一層深めることを重視して、次のような改善を図る。

- 地理歴史科については、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を一層深めさせるよう科目間の関連を重視するとともに、各科目で専門的な知識、概念や技能を習得、定着させ、それらを活用できるよう改善を図ることが大切である。その際、地図を活用した学習を一層重視する。

地理歴史科の各科目における改善の具体的事項

◆「世界史A」

地図、年表、資料などを活用し、地理的条件や日本の歴史との関連に一層留意しながら、諸文明の特質と現代世界の形成過程を理解させるとともに、人類の諸課題を追究する学習などを通して、現代世界に関する認識を深め、歴史的思考力を培うようにする。

◆「世界史B」

地図、年表、資料などを活用し、諸地域の地理的条件や日本の歴史との関連に留意しながら、世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解させ、文化の多様性・複合性に関する認識を深めさせるとともに、適切な主題を設定して追究する学習を一層重視して、世界史の学び方や歴史的思考力を培うようにする。

◆「日本史A」

様々な資料を活用し、地理的条件や世界の歴史と関連させながら、課題を追究する学習を重視して、我が国の近現代の歴史や現代社会の成り立ちについて理解させ、歴史的思考力を培うようにする。

◆「日本史B」

様々な資料の活用を重視し、地理的条件や世界の歴史と関連させながら、適切な主題を設定して追究する学習などを通して、我が国の歴史の展開を総合的に理解させ、伝統や文化の特色についての認識を深めさせて、歴史的思考力を培うことを一層重視する。

◆「地理A」

防災などの生活圏の地理的課題に関する地図の読図・作図及び地域調査などの作業的、体験的な学習を充実し、実生活と結び付いた地理的技能を身に付けさせるとともに、環境、資源・エネルギー問題などの現代世界の諸課題や持続可能な開発の在り方などについて地域性や歴史的背景を踏まえて考察させ、地理的な見方や考え方を培うことを一層重視する。

◆「地理B」

現代世界の自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、人種・民族などに関する地理的事象の分布やその要因などについて体系的に考察させるとともに、それらの学習で習得した知識、概念や地理的技能を活用して、世界諸地域の地域的特色を歴史的背景に留意して多面的・多角的に考察させ、地理的な見方や考え方を培うことを一層重視する。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

改正学校教育法等により、学力の重要な要素が、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」、「学習意欲」であることが明確化された。

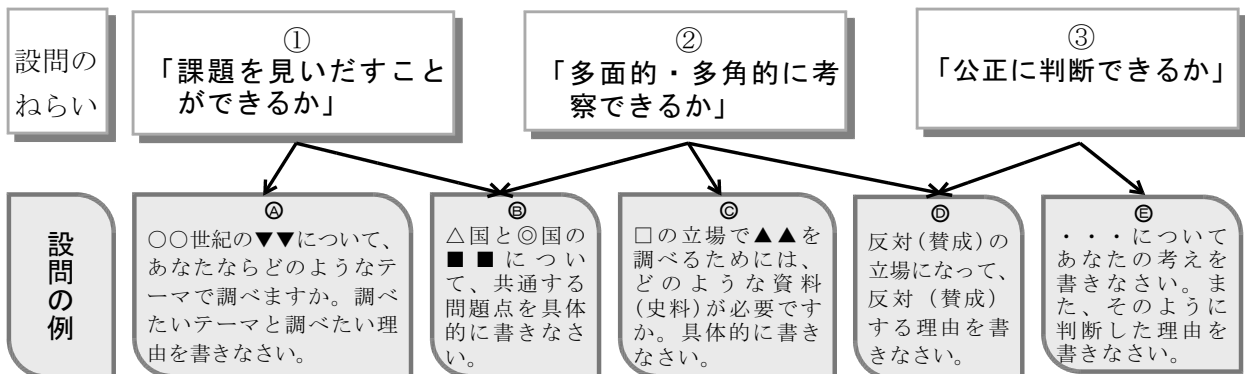
本手引では、学力の重要な要素の1つである「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」を取り上げ、「思考力・判断力」の評価にかかわるペーパーテスト問題の工夫・改善の視点や、「思考力・判断力」を育成するための学習指導計画の概略と、到達状況を評価するためのペーパーテスト問題の例を次に示す。

(1) ペーパーテスト問題の工夫・改善の視点（世界史Aにおける「思考・判断」の例）

【世界史A「思考・判断」の評価の観点の趣旨】

近現代史を中心とする世界の歴史から①課題を見いだし、世界史的視野に立って②多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ③公正に判断する。

「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校）」



(2) 学習指導計画とペーパーテスト問題の例

ア 世界史 B

学習指導計画の概略

科目名	世界史 B	単元名	(4)諸地域世界の結合と変容 イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界	指導時間	1 1
時数	本 時 の ね ら い			学 習 内 容 ・ 学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	○ルネサンスの時代の絵画等の作品の特徴を把握させ、ルネサンスの性格と歴史的意義について考察させる。		・ルネサンスの時代の絵画を中世の絵画と比較しながら、共通点や相違点をグループごとに話し合い、ルネサンスが歴史に与えた影響を考察する。		・様々な角度から比較するよう促す。
2	○新航路の開拓の経緯と商業革命などの社会変化に着目させ、商業革命が世界経済に与えた影響について考察させる。		・ポルトガルとスペインの海外進出の経緯を白地図に記入し地理的に捉え、日本を含めた世界の経済の変化について考察する。		・貿易の拡大に気付かせる。
3	○中世の権威であったキリスト教への批判運動として宗教改革が起こった経緯や、新教の主張について考察させる。		・ルターとカルヴァンの宗教改革を比較し、対比的に表にまとめることで、宗教改革について整理する。		・比較する項目を考えさせる。

ペーパーテスト問題の例

1 次の資料Ⅰ～Ⅲと対話文を見て、問1～4に答えなさい

資料Ⅰ 中世とルネサンス時代の絵画

A	B
三美神(中世)	三美神(ルネサンス時代)
14世紀の写本のさし絵より	ポッティチェリ「春」より

資料Ⅱ ルネサンス時代のイタリア

資料Ⅲ ルネサンス時代の人物年表

地域	西ヨーロッパ諸国		日本
	イタリア	他	
1500	ボッティチェリ	ミケランジェロ	
1600	ガリレオ・ガリレイ	フレイゲル	豊臣秀吉
		モネーニ	徳川家康
		シエクスピア	

対話文

太郎さん：資料Ⅰの2つの絵画はともに三美神を描いたものだけど、比べるとずいぶん雰囲気が違うね。
 花子さん：はい、< >はルネサンスの時代に描かれたものです。 a
 太郎さん：資料Ⅱを見ると、ルネサンスの時代は、イタリアが(1)ことが分かるね。
 花子さん：私は、資料Ⅱとイタリア以外の地域の地図とを比べてみました。イタリアでは、ローマを中心とした教皇領の面積が広いことが分かりました。
 太郎さん：なるほど。そのことから、イタリアのルネサンスは(2)ことが考えられるね。
 花子さん：資料Ⅲを見ると、イタリアでルネサンスが最盛期を迎えた後、イタリア以外の国や地域でモンテニユやシェクスピアが活躍するなど、ルネサンスの中心が(3)ことが分かりますね。
 太郎さん：そうだね。同じ頃、日本は豊臣秀吉が大坂城を築いた b 時代だったんだ。
 また、西ヨーロッパでは、文学や思想、科学の発達がみられはじめたようだね。
 花子さん：例えば、ガリレオ＝ガリレイが宗教裁判で地動説の放棄を強要されたことなどを考えると、この時代の一部の科学者などは(4)ことが分かりますね。

問1 対話文中の< >に当てはまる絵画の記号をA・Bから選びなさい。また、花子さんがルネサンスの時代の絵画の特徴を説明している a に入る文を考え、簡単に書きなさい。【資料活用の技能・表現】

問2 対話文中の(1)～(4)に当てはまる文をア～エから選びなさい。また、 b に入る時代の名を漢字で書きなさい。【思考・判断】

- ア キリスト教の影響を強く受けていた イ 中世の権威や倫理に異を唱えていた
 ウ 公国や共和国に分裂していた エ 他のヨーロッパ諸国に移った

問3 あなたがルネサンスの学習をさらに深めるために資料として使いたいものをア～エから1つ選び、それをどのように活用するかを簡単に書きなさい。【関心・意欲・態度】

- ア メディチ家が経営する銀行の所在地 イ ギリシア文明の作品
 ウ 「ユートピア」・「随想録」などの文献 エ ルターとカルヴァンの宗教改革の文献

正答

問1 B 理由 ルネサンスの時代の絵画は人間性を豊かに表現しています など

問2 (1)ウ (2)ア (3)エ (4)イ a 安土桃山

問3 アを選択した場合の例：ルネサンスを支援したメディチ家の財政基盤について調べる。

出題のねらい

問1 2つの絵画を比較してルネサンスの時代に描かれた絵画の特徴を説明する力をみる。

問2 地図や年表から、ルネサンスの時代を多面的・多角的に捉えて思考する力をみる。

問3 学習を深めるために、身に付けたルネサンスの知識を活用して、課題を追究しようとする意欲をみる。

学習指導計画の概略

科目名	日本史 B	単元名	(5) 「近代日本の形成とアジア」	ア 「明治維新と立憲体制の成立」	指導時間	1 4
時数	本 時 の ね ら い			学 習 内 容 ・ 学 習 活 動	指導上の留意点	
1	○列強のアジア進出などの国際社会との関連を通して、日本が開国するに至った過程を考察させる。			<ul style="list-style-type: none"> ・列強に支配された地域等を白地図に記入するなどして列強のアジア進出の動きに気付く。 ・日本がアメリカなどと結んだ2つの条約の内容を理解するとともに、国際社会における日本の地位について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日露和親条約にも触れ、国境について確認させる。 	
7	○政治、経済などの側面から、明治初期に新政府により行われた諸制度の改革について考察させる。			<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や資料集、図表を活用して、地租改正と殖産興業の内容から、各自が興味をもった事柄を、分かりやすくワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人による調べ学習の形態をとる。 	
10	○国会開設要求の運動が起こり自由民権運動が展開する中で、立憲体制が形成されてきたことを、多面的・多角的に考察させる。			<ul style="list-style-type: none"> ・板垣退助、後藤象二郎、片岡健吉、植木枝盛ら民権派の人物を取り上げ、自由民権運動の展開と、国会開設に向けた政府の動きを考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国民の政治的な関心の高揚に気付かせる。 	

ペーパーテスト問題の例

1 ゆみ子さんが作成した右の年表を見て、問1、2に答えなさい。

問1 (1)、(2)に答えなさい。【思考・判断】

(1) 当時の政府を批判するできごとを、ア～クから選びなさい。

(2) (1)で選んだできごとに最もかかわりの深いことばを、ア～エから選びなさい。

ア 憲政擁護運動
イ 尊王攘夷運動
ウ 自由民権運動
エ 地方改良運動

西暦(年)	できごと
1871	ア 全国の藩を廃止し、県を置いた。
1872	イ 兵部省を廃止し、陸軍省と海軍省を設置した。
1873	ウ 地租改正条例を制定した。
1874	エ 民撰議院設立の建白書を提出した。
1875	オ 讒謗律と新聞紙条例を制定した。
1876	カ 軍人・警官以外の帯刀を禁止した。
1877	キ 立志社建白を提出した。
1878	ク 愛国社再興大会を開催した。

問2 ゆみ子さんは、日本史の授業で、年表中の「地租改正条例」に関して発表するために次のようなパネルを作成しました。

(1)、(2)に答えなさい。

(1) 地租改正の「ねらい」をAに簡単に書きなさい。

【知識・理解】

(2) (あ)～(う)に当てはまることばを、ア～エから選びなさい。【資料活用の技能・表現】

ア 地券(写真)
イ 明治時代後期の農民一揆の発生件数(統計表)
ウ 明治時代前期の国家財政に占める地租の割合の推移(グラフ)
エ 江戸時代後期の幕領の年貢収納高の推移(グラフ)

パネル

「地租改正」について

〔ねらい〕

A

(あ) Aを説明するための資料

↓

〔経過〕

- 課税基準を収穫高から地価へ
- 物納から金納へ
- 税率を地価の3%とする
- 地券所有者を納税者とする

↑

(い) 〔経過〕を説明するための資料

↓

〔結果〕

地租が全国同一の基準で豊凶にかかわらず一律に貨幣で徴収され、近代的な租税制度が整った。

(う) 〔結果〕を説明するための資料

正答

問1 (1) エ、キ、ク (2) ウ

問2 (1) 解答例：国家財政を安定させる。
(2) (あ) エ (い) ア (う) ウ

出題のねらい

問1 「当時の政府を批判する動き」という観点から、明治初期の主な歴史的な事象を比較・分類することができる力と歴史的な概念(この設問では「自由民権運動」)にまとめることができる力をみる。

問2 「地租改正」についてのプレゼンテーションの場面を設定し、さまざまな資料の中から有用な資料を適切に選択し、活用することができる力をみる。

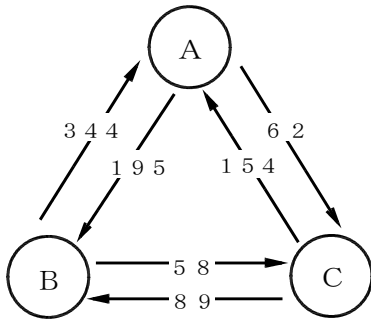
学習指導計画の概略

科目名	地理 B	単元名	(3)現代世界の諸課題の地理的考察 ウ 国家間の結び付きの現状と課題	指導時間	5
時数	本 時 の ね ら い			学習内容・学習活動	指導上の留意点
1	○現代世界の国家に関して、国家や国境の意味、地域統合の動きなどについて考察させる。		・現代世界の国家について、領域や地域統合の動きなどの基本的な知識を身に付ける。また、世界各地の国境紛争や経済圏などを白地図に記入する。		・中学校で学習した知識を想起させる。
2	○世界を結ぶ交通・通信について、その発達過程と、異なる環境条件に基づいて生じる地域差について考察させる。		・世界を結ぶ交通・通信の手段が、地理的位置、距離、資源の分布等の環境条件と関連していることを理解する。また、交通・通信手段の発達状況などについて、ワークシートに記入する。		・資料等を調べる時間を十分確保する。
5	○現代世界の貿易と経済圏についての現状と課題や、世界の中における日本の貿易の現状と課題等を考察させる。		・国家間、地域間の結び付きの現状や、経済のグローバル化に伴う課題について、各自が興味をもった事柄を、教科書や資料集、図表を活用して、レポートにまとめる。		・グループ学習やグループ発表の形態をとる。

ペーパーテスト問題の例

1 次の図は、国・地域間の貿易額を示しており、図のA～Cには、日本、NAFTA、EUのいずれかが当てはまります。問1～問3に答えなさい。

図

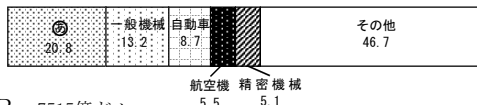


(数字の単位は10億ドル。日本国勢図会2006/07年版より作成。)

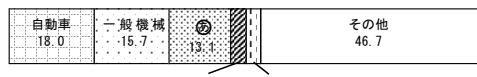
グラフ

A、B、Cに属する国の主要輸出品の輸出額に占める割合

A 7238億ドル



B 7515億ドル



C 4720億ドル



(数字の単位は% 「2006データブックオブ・ザ・ワールド」より作成。)

問1 次の文を読んで、(1)～(3)に答えなさい。

【資料活用の技能・表現】【思考・判断】

図をみると、国・地域間の貿易額が最も大きいのは、1と2の国・地域間である。

また、AはB、Cのいずれに対しても、貿易収支が① {ア 黒字 イ 赤字} であることから、Aはaであることが分かる。

さらに、CはA、Bのいずれに対しても、貿易収支が② {ア 黒字 イ 赤字} であることから、Cはcであり、Bはbであることが分かる。

(1) 1、2に当てはまるものを、A～Cからそれぞれ選びなさい。

(2) ①、②に当てはまることばをア、イからそれぞれ選びなさい。

(3) a～cに当てはまる国・地域をEU、NAFTA、日本のいずれかからそれぞれ答えなさい。

問2 次の表のア～エには、EUの加盟国のうち、フランス、ドイツ、イギリス、イタリアのいずれかが当てはまります。イギリスが当てはまるものを、ア～エから選びなさい。

【知識・理解】【資料活用の技能・表現】

項目	小麦生産量 (千トン)	ぶどう生産量 (千トン)	原油生産量 (万トン)	自動車生産台数 (千台)
ア	7092	8326	545	1212
イ	35367	6693	346	3169
ウ	22428	1015	114	5820
エ	14735	1	8752	1648

(世界国勢図会2007/08年版より作成。)

問3 左のグラフは図のA、B、Cに属する国の主要輸出品の輸出額に占める割合を、それぞれ示したものです。次の(1)、(2)に答えなさい。【思考・判断】

(1) ㊦に当てはまることばを、ア～エから選びなさい。

ア 銅 イ 電気機械 ウ 衣類 エ 米
(2) (1)で選んだ理由を、簡単に書きなさい。

正答

問1 (1) 1-A、2-Bまたは1-B、2-A (2) ①イ ②ア (3) a NAFTA b EU c 日本

問2 エ 問3 (1) イ (2) 解答例：いずれの国も、主要輸出品が機械など付加価値の高い工業製品である先進国の特徴を示しているから。

出題のねらい

問1 国・地域の相互の貿易額や貿易収支にかかわる資料を活用し、地域的差異を読み取ることが出来る力をみる。

問2 EUを構成する主な国の農業生産や鉱工業生産の特徴について理解し、その知識を身に付けているかをみる。

問3 主要な貿易品の貿易額に占める割合を資料から読み取り、その地域的特質を的確に考察出来る力をみる。

Topic

地理歴史科における伝統や文化に関する教育の充実

◆ 改正教育基本法においては、前文で「伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する」ことが示されている。さらに、第2条第5号では「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」が新たに示された。

改正教育基本法及び学校教育法の一部改正において伝統と文化の尊重が明確にされたことにより、その規定の趣旨を踏まえ、学校における伝統と文化に関する指導の一層の充実を図ることが求められる。

▶ 現行学習指導要領における、伝統と文化に関する教育の位置付け

生徒に我が国や郷土の伝統や文化についての理解を深めさせ、それらを尊重する態度をはぐくむために、伝統や文化に関する内容が、関係する教科等において位置付けられている。現行学習指導要領において、伝統や文化にかかわる主な内容等は次のとおりである。

【国語総合】
「我が国の文化と伝統に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと」(内容の取扱い)

【家庭総合】
「生活文化の伝承と創造」において、「衣食住にかかわる生活文化の背景について理解させるとともに、生活文化に関心をもたせ、それを伝承し創造しようとする意欲をもたせる。」(内容)

【日本史B】
「我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによつて、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。」(目標)、「文化に関する指導に当たっては、各時代の文化とそれを生み出した時代的背景との関連、外来の文化などとの接触や交流による文化の変容や発展の過程などに着目させるようにすること。また、生活文化については、時代の特色や地域社会の有様などに関連付けるとともに、民俗学などの成果に基づき具体的な様相を把握させること。」(内容の取扱い)

【芸術】
【音楽I】
表現及び鑑賞の教材について、「郷土の伝統音楽を含めて扱うよう配慮する」とともに、歌唱と楽器の指導について「我が国の伝統的な歌唱及び和楽器を含めて扱うようにする」。また、鑑賞については、「主として箏曲、三味線音楽(歌い物)、尺八音楽などを扱うようにする」。(内容の取扱い)

【美術I】
鑑賞「日本の美術の歴史と表現の特質」(内容)

▶ テーマ「日本の伝統的な服装について考える」(日本史B)

次の指導計画例では、一つのテーマについて教科を横断して授業を実施することにより、生徒に、多面的・多角的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることを主なねらいとしている。

■指導計画例

時間	主な学習活動	学習のポイント	主な使用教材等	指導者
1	[服装の変化と時代の推移] ・古代から近世に至るまでの服装について調べ、その特色と時代背景をワークシートにまとめる。	・服装と生活様式とのかかわり	・図表 ・ワークシート	日本史担当教員
2	[平安時代の服装] ・平安時代の文学作品に親しむとともに、絵巻物を見て、貴族の生活の様子を通して、当時の服装について考察する。	・束帯や衣冠、女房装束の特色	・「源氏物語」 ・「源氏物語絵巻」(パネル) ・ワークシート	日本史担当教員 国語科教員
3	[江戸時代の服装] ・元禄期から化政期の美術の中から浮世絵を取り上げ、美術作品の視点から浮世絵に親しむとともに、庶民の生活の様子を通して、当時の服装について考察する。	・小袖(現在の和服の原型)、振り袖、羽織の特色	・浮世絵(パネル) ・ワークシート	日本史担当教員 美術担当教員 外部講師
4	[和服の特徴] ・代表生徒1名が、実際に着物の着付けを体験(ほかの生徒は見学)する。 ・グループに分かれて、着物のたたみ方を体験する。	・着物の「型」の特徴(洋服との比較を通して)	・着物(実物)	日本史担当教員 家庭科教員 外部講師(NPO法人・□□保存会)
5	[整理とまとめ] ・グループに分かれて、2~4時間目に取り上げた内容の中から、最も興味を持つことができた事項について、プレゼンテーションソフトを利用してまとめる。	・服装について、新しく知ったことや気付いたことの整理	・コンピュータ	日本史担当教員 情報担当教員
6	[発表] ・グループごとに、まとめた内容について発表するとともに、評価票を用いて相互評価を行う。 ・国語科教員、美術担当教員(外部講師)、家庭科教員(外部講師)、情報担当教員からの講評を聞く。	・発表方法の工夫 ・自分のグループの発表についての振り返り	・コンピュータ ・プロジェクタ ・スクリーン ・評価票	日本史担当教員